NEC Express5800シリーズ

1

導入編

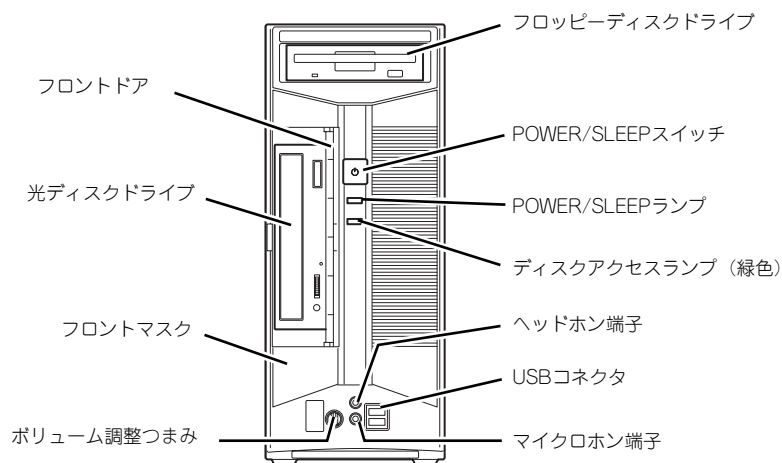
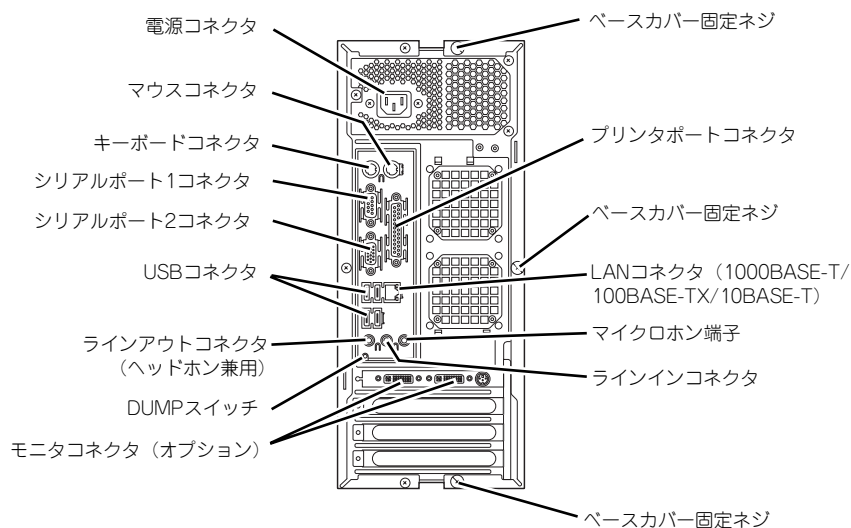
本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと

本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。

<装置前面>

<装置背面>

特　長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- Intel® Core™ 2 DUO Processor搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T インタフェース（1Gbps/100Mbps/10Mbps対応）
- SATA300対応高速ディスクアクセスをサポートした内蔵ハードディスクドライブ

高信頼性

- パスパリティエラー検出
- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- ディスクアレイ（SATA）
- メモリ監視機能（1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出）

保守機能

- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能
- 保守ツール

豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子（ラインイン/ラインアウト（ヘッドホン兼用）/マイク/ヘッドホン）搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- ACリンク機能
- SATA300（内蔵ハードディスクドライブ用）対応
- 光ディスクドライブは購入時に選択可能なフリーセレクションタイプ

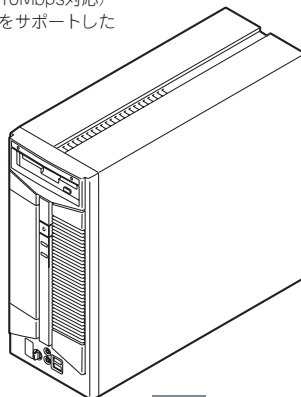
省電力機能

多彩なスリープ機能をサポート*1（オプションボードによっては機能しないものもある）

管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test（POST）
- テスト診断（TeDoLi）

すぐに使える

Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition 日本語版または、Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版がインストール済み

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER（システムセットアップユーティリティ）
- ExpressPicnic（セットアップパラメータFD作成ユーティリティ）
- SETUP（BIOSセットアップユーティリティ）

拡張性

- PCIバス X4スロット
  - ・PCI Express(x16) X1スロット(PCI #1)
    オプションのグラフィックスアクセラレータ用
  - ・PCI 32-bit/33MHz/5Vインターフェース X2スロット(PCI #2,#3)
  - ・PCI Express(x4) X1スロット(PCI #4)
- 最大4GB*2のメモリ（DIMM×4スロット）
  Microsoft Windows XP Proffesionalの場合
  最大8GBのメモリ(DIMM×4スロット)
  Microsoft Windows XP Proffesional x64 Editionの場合
- USB2.0対応

*1　Microsoft Windows XP Professional x64 Editionを使用し、4GB以上のメモリを実装している場合は、休止状態は使用できません。
*2　3GB程度しか認識されません。

本体管理

本製品のハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」により、システムの状態を統合的に管理することができます。本体の状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェックすることができます。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下表のようになります。

機能名		可否	機能概要
ハードウェア		○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
	メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
	装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
	CPU	○	CPU の物理的な情報を表示する機能です。
システム		○	CPU の論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/O デバイス		○	I/O デバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする機能です。
システム環境		△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
	温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
	ファン	○	ファンを監視する機能です。
	電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
	電源	X	電源ユニットを監視する機能です。
	ドア	X	Chassis Intrusion(筐体のカバー/ドアの開閉)を監視する機能です。
ソフトウェア		○	サービス、ドライバ、OS の情報を参照する機能です。
ネットワーク		○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス		○	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS		○	BIOS の情報を参照する機能です。
ローカルポーリング		○	エージェントが取得する任意の MIB 項目の値を監視する機能です。
ストレージ		○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム		○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ		○	LSI Logic 社製および Promise 社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。
その他		X	Watch Dog Timer による OS ストール監視をする機能です。
		X	OS STOP エラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート　△: 一部サポート　X: 未サポート

ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- 内蔵のハードディスクドライブとDATなどのバックアップ装置機能を提供します。

  テープ装置へのデータのバックアップはWindows XP標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。

- マザーボードのRAIDコントローラと内蔵のハードディスクドライブによるディスク管理機能を提供します。

  ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながるといえます。マザーボードのRAIDコントローラを使用することにより、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともにハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

  本体のマザーボードには、シリアルATA(SATA)ハードディスクドライブを接続することができるチャネルを標準で持っています。また、このチャネルを制御するコントローラによってRAIDドライブを構築することができます。コントローラがサポートしているRAIDレベルはRAID0とRAID1です。
  コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「LSI Logic Software RAID Utility」を使用します。詳しくは「ハードウェア編」を参照してください。
  運用中の管理・保守はブラウザベースのユーティリティ「MegaRAID Storage Manager」を使用します。使用方法については「ソフトウェア編」、またはオンラインドキュメントを参照してください。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。
本製品では、弊社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*で管理・制御します。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワークステーション、ルータ、ハブなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやハブの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムに本製品を導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめに本体、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成品表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあったときはお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、本体の状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。
添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本体、およびExpress5800シリーズ製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。
ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、本体に障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラート通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。
「エクスプレス通報サービス」を利用することもご検討ください。

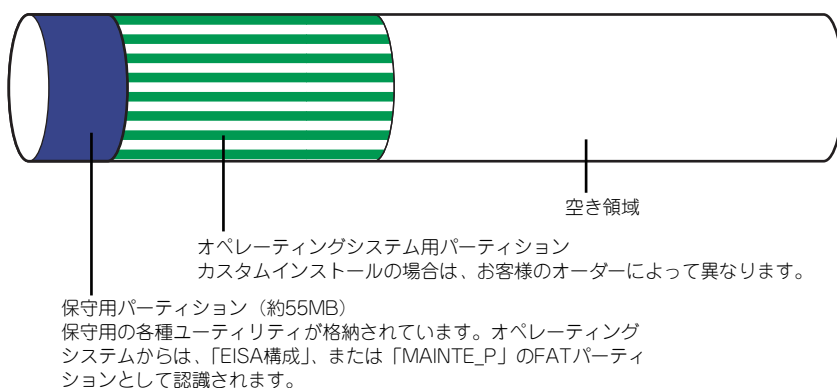
システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認してください。

- **パーティション構成について**

  本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域（保守用パーティション）が自動的に作成されます。

- **保守パーティションについて**

  保守用パーティションには、Express5800製品の保守作業に大変有効な保守用ツールが格納されます。保守用ツールは、EXPRESSBUILDER等の起動媒体(CDやFD)から起動することもできますが、保守用パーティションに格納しておけば、起動媒体がお手元に無い場合でも、保守用ツールを使用することができます。

- **保守パーティションエリアの削除に関する注意点**

  新規に保守用パーティションを作成する場合ディスクをクリアします。よって、保守用パーティションを削除した場合、再度保守用パーティションを作成すると、ディスク全面がクリアされますのでご注意ください。

電源を入れる前に

本体をセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

本体を箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順で本体背面のコネクタに接続します。

オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入された本体にはMicrosoft Windows XP Professional x64 Edition 日本語版または、Microsoft Windows XP Professional 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。詳しい手順は14ページで説明しています。

システムの修復をする場合は、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

  何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。
  詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- 再セットアップ

  システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなった場合などに添付のバックアップCD-ROMを使って再セットアップしてください。
  再セットアップの方法については35ページで説明しています。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクドライブなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows XP x64 EditionまたはWindwos XPに関しては、本書で説明しています。

弊社では、ESMPRO の他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします（ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます）。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください（インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています）。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。

添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のバックアップをとります。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアすることで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。
ネットワークを経由して、他のシステムからの指示により本体の電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」で「Wake On LAN/PME」を［Enabled］に設定します。

UPS接続時のポイント

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSから本体の電源を制御できる電源連動（ACリンク）機能を使用することができます。
このACリンク機能を使用して本体の電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Server」メニューの「AC-LINK」を［Power On］に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

- ディスクアレイコントローラを使用する場合

  MegaRAID Storage Managerをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「MegaRAID Storage Manager」の説明に従ってMegaRAID Storage Managerをインストールしてください。

  ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、アレイディスクの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします（オンラインドキュメント「MegaRAID Storage Managerユーザーズガイド」の「Check Consistency機能」を参照してください）。

- バックアップファイルシステムを使用する場合

  本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

  主なバックアップツールは次のとおりです。

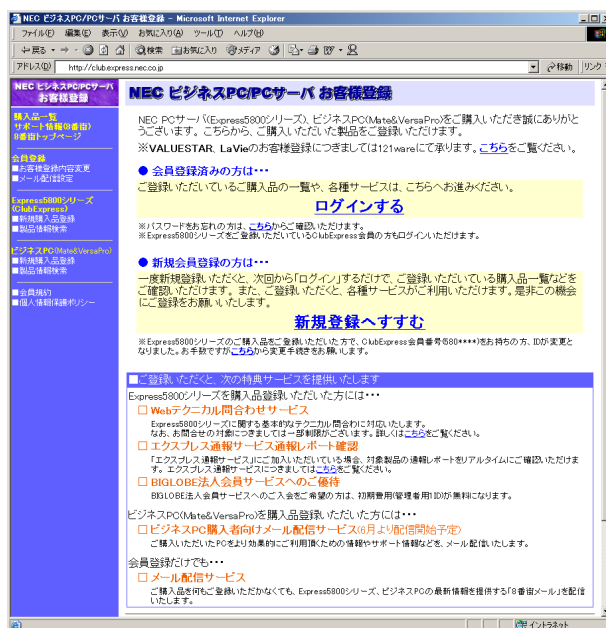
  - Windows XPバックアップツール
  - ARCserve（コンピュータ・アソシエイツ社）
  - BackupExec（シマンテック社）
  - NetBackup（シマンテック社）

  DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するように心がけてください。

お客様登録

弊社では、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ（34ページ）」を参照してください。

重要

本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。

プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意ください。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

1 EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付のマニュアルと「応用セットアップ」（48ページ）を参照してセットアップしてください。

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているオプションボード
  - LSI Logic Embedded MegaRAID™(マザーボード上のコントローラを利用)
- その他のオプション
  - N8103-95 SCSIコントローラ

2 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

1. 本体に、最も適した場所に設置する（→60ページ）。
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルを本体に接続する（→63ページ）。

プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

3. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する（→66ページ）。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   111ページを参照してください。

BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください（本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ･アンド･プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません）。

3 オペレーティングシステムのセットアップ

電源をONにして、お使いになれる状態になるまでを順を追って説明します。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でシステムを起動して、セットアップを始めます。

Windows XP Professional の場合

本装置にインストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。
装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows XP RUR x 対応（Service Pack x）インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールをしてください。
サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認ください。
[NEC 8番街] http://nec8.com/

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。

セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

   本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windows セットアップウィザードの開始」画面が表示されます。

   以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリックしてセットアップを進めてください。

   - [ライセンス契約] 画面では、ライセンス契約の内容を確認してください。
   - [ソフトウェアの個人設定] 画面では、名前や組織名を入力します。
   - [コンピュータ名とAdministratorのパスワード] 画面では、コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力してください。
   - [日付と時刻の設定] 画面では、日付と時刻を正しく設定してください。
   - [ネットワークの設定] 画面では、ネットワークの設定を選択します。
   - [ワークグループまたはドメイン名] 画面では、ドメインに参加させるか選択します。

   システムが再起動します。

3. **再起動後、システムにログオンする。**

   以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

   - ESMPRO/ServerAgent
   - エクスプレス通報サービス
   - MegaRAID Storage Manager

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

Microsoft Windows XP Professionalの場合

Microsoft Windows XP Professionalがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。

セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. **フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。**
2. **本体の電源をONにする。**

   本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。

   以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、［次へ］をクリックしてセットアップを進めてください。

   - ［使用許諾契約］画面では、使用許諾の内容を確認してください。
   - ［コンピュータを保護してください］画面では、自動更新を行うか選択します。
   - ［コンピュータに名前を付けてください］画面では、コンピュータの名前やコンピュータにわかりやすい説明をつけることができます。
   - ［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面では、使うデバイスを選択します。
   - ［高速接続のセットアップを行います］画面では、LAN接続をセットアップしてください。
   - ［Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？］画面では、任意でユーザー登録が可能です。
   - ［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面では、このコンピュータを使う各ユーザーの名前を入力してください。

   ［設定が完了しました］画面が表示されます。［完了］をクリックしてください。

3. **設定完了後、自動でシステムにログオンする。**

   以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

   － ESMPRO/ServerAgent

   － エクスプレス通報サービス

   － MegaRAID Storage Manager

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

- **ディスクドライバ**

  標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

- **ネットワークアダプタの詳細設定**

  標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator等）でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしておりません。

1. **[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを開く。**

   [標準のスタートメニューモードの手順]

   (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

   [ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

   (2) [プロパティ]をクリックする。

   [クラシックスタートメニューモードの手順]

   (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

   (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. **[構成]をクリックする。**

   [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. ［詳細設定］タブをクリックし、［Speed & Duplex］をハブの設定値と同じ値に設定する。
4. [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

オプションのネットワークドライバの設定手順

＜PROSetがインストールされていない場合＞

（1） デバイスマネージャを起動する。

（2） ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000 ～]をダブルクリックする。

（3） [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と同じ値に設定する。

（4） [Intel(R) PRO/1000 ～ のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

＜PROSetがインストールされている場合＞

（1） デバイスマネージャを起動する。

（2） ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000 ～]をダブルクリックする。

（3） [リンク]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値に設定する。

（4） [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

- **オプションのネットワークボードのドライバ**

オプションのネットワークボード（N8104-111/112/119/120）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールして下さい。

[N8104-111]のボード名のドライバ
[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥NS4¥PRO100¥WS3XPX64]

[N8104-112/119/120]のボード名のドライバ
[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥NS4¥PRO1000¥WS3XPX64]

＜オプションボード用ネットワークドライバのインストール＞

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [イーサネットコントローラ]ダブルクリックする。

   ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。

   [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。

4. [一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

   [N8104-111]のボード名のドライバ
   [<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥NS4¥PRO100¥WS3XPx64]

   [N8104-112/119/120]のボード名のドライバ
   [<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥NS4¥PRO1000¥WS3XPx64]

   ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。
6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

● PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

－ アダプタ詳細情報の確認

－ ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断

－ Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから［すべてのプログラム］、［アクセサリ］の順にポイントし、［エクスプローラ］をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥NS4¥PROSet¥WS3XPx64」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

   ［Intel(R) PROSet - InstallShield ウィザード］が起動します。
4. ［次へ］をクリックする。
5. [同意する]をクリックする。
6. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
7. ［インストール］をクリックする。

   ［InstallShield ウィザードを完了しました］ウィンドウが表示されます。
8. [閉じる]をクリックする。
9. システムを再起動させる。

以上で完了です。

- **AFT/ALBのセットアップ**

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

重要

- **AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。**
- **アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。**

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

   両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。
9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

   実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

- **SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合**

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ（ディスプレイドライバ）**

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク（フロッピーディスクかCD-ROM）を使用してドライバをインストールしてください。

- **サウンドドライバ**

  標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

- **USB2.0ドライバ**

  USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

Microsoft Windows XP Professionalの場合

- **ディスクドライバ**

  標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

- **ネットワークアダプタの詳細設定**

  標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator 等）でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしておりません。

1. **[ローカルエリア接続のプロパティ］ダイアログボックスを開く。**

   [標準のスタートメニューモードの手順]

   (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

   [ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

   (2) [プロパティ]をクリックする。

   [クラシックスタートメニューモードの手順]

   (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

   (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. **[構成］をクリックする。**

   [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. **[詳細設定］タブをクリックし、[Speed & Duplex］をハブの設定値と同じ値に設定する。**

4. **[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。**

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

オプションのネットワークドライバの設定手順

＜PROSetがインストールされていない場合＞

（1） デバイスマネージャを起動する。

（2） ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000 ～]をダブルクリックする。

（3） [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と同じ値に設定する。

（4） [Intel(R) PRO/1000 ～ のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

＜PROSetがインストールされている場合＞

（1） デバイスマネージャを起動する。

（2） ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000 ～]をダブルクリックする。

（3） [リンク]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値に設定する。

（4） [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続] からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

- **オプションのネットワークボードのドライバ**

オプションのネットワークボード（N8104-111/112/119/120）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールして下さい。

[N8104-111]のボード名のドライバ
[<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥NS4¥PRO100¥WS03XP2K]

[N8104-112/119/120]のボード名のドライバ
[<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥NS4¥PRO1000¥WS03XP2K]

＜オプションボード用ネットワークドライバのインストール＞

1. **デバイスマネージャを起動する。**

2. **[イーサネットコントローラ]ダブルクリックする。**

   ダイアログボックスが表示されます。

3. **[ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。**

   [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。

4. **[一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。**

5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

   [N8104-111]のボード名のドライバ
   [<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥NS4¥PRO100¥WS03XP2K]

   [N8104-112/119/120]のボード名のドライバ
   [<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥NS4¥PRO1000¥WS03XP2K]

   ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

- **PROSet**

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- eamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから［すべてのプログラム]、［アクセサリ］の順にポイントし、［エクスプローラ］をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥NS4¥PROSet¥2KXPWS03」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

   ［Intel(R) PROSet - InstallShield ウィザード］が起動します。

4. ［次へ］をクリックする。
5. [同意する]をクリックする。
6. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
7. ［インストール］をクリックする。

   ［InstallShield ウィザードを完了しました］ウィンドウが表示されます。

8. [閉じる]をクリックする。
9. システムを再起動させる。

以上で完了です。

- **AFT/ALBのセットアップ**

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT 機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

- **AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。**
- **アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。**

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

   両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。
9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

   実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

- **SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合**

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)**

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

- **サウンドドライバ**

  標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

- **USB2.0ドライバ**

  サービスパック2以降を適用時のみ使用可能です。USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

システムのアップデート（サービスパックの適用）

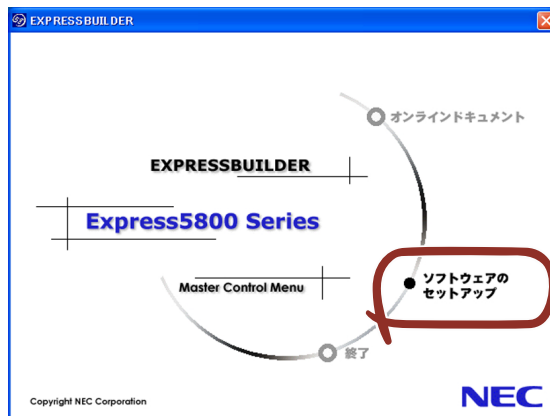
システムは、購入時に自動的に最新の状態にアップデートされますが、次のような場合には必ずアップデートし直してください。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合）
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

  （サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）

Windows XP Professional の場合ではServicePack なし/1/1a は、サポートしておりません。ServicePack2以上を使用する必要があります。
ServicePack 2が含まれたWindows XP CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度ServicePack 2を適用する必要はありません。

アップデート手順

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインした後、本体の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、メニューから［システムのアップデート］をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。

4　内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入したオプションの内蔵デバイスを取り付けてください。取り付け手順については、ハードウェア編の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください.
デバイスドライバ等のインストール手順については、オプションに添付の説明書などを参照してください。

ここで取り付けたデバイスのモデル名やタイプ、取り付け位置をメモしておいてください。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、購入時の標準的なハードウェア構成に戻してから作業を始める必要があります。購入時のセットアップを完了した後に取り付けたデバイスは、取り外さなければいけません。

別売のネットワークケーブルで本装置をネットワークに接続してください。キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外の外付けデバイスがある場合は、それらのデバイスも併せて接続してください。
本体のコネクタ位置についてはハードウェア編の「各部の名称と機能」を参照してください。

5 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- ［タスクバーと［スタート］メニューのプロパティ］の［[スタート]メニュー］タブで［[スタート］メニュー］が選択されている。
- フォルダーオプションで、［フォルダに共通の作業を表示する］が選択されている。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。次の手順に従って設定します。

メモリダンプの注意

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

1. スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックする。

   ［コントロールパネル］ウィンドウが表示されます。

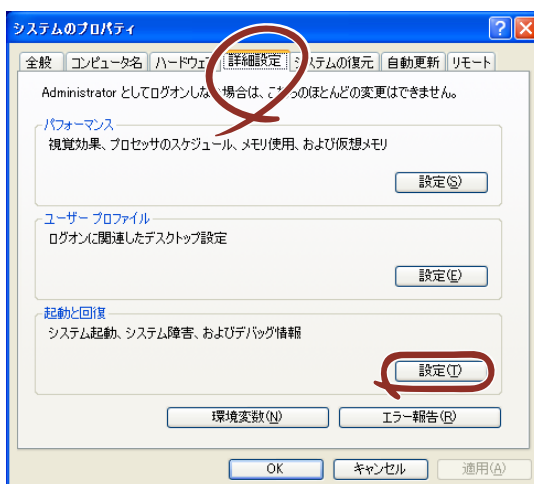
2. ［コントロールパネル］ウィンドウから［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする。

クラシック表示にしている場合は、［コントロールパネル］から直接［システム］をクリックしてください。

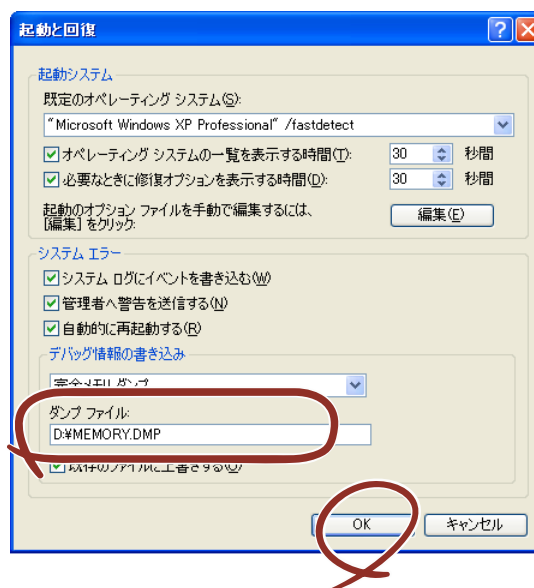
3. ［システム］をクリックする。

   ［システムのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

4. ［詳細設定］タブをクリックする。

5. ［起動と回復］ボックスの［設定］をクリックする。

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、［OK］をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

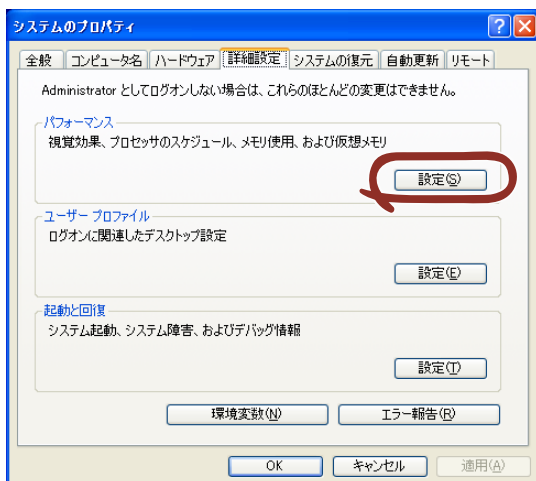
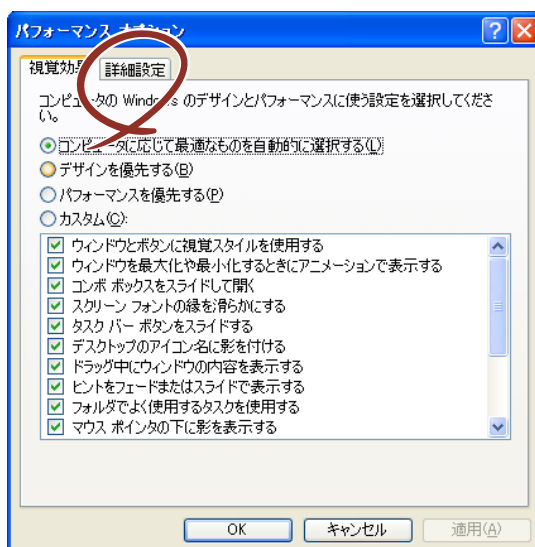
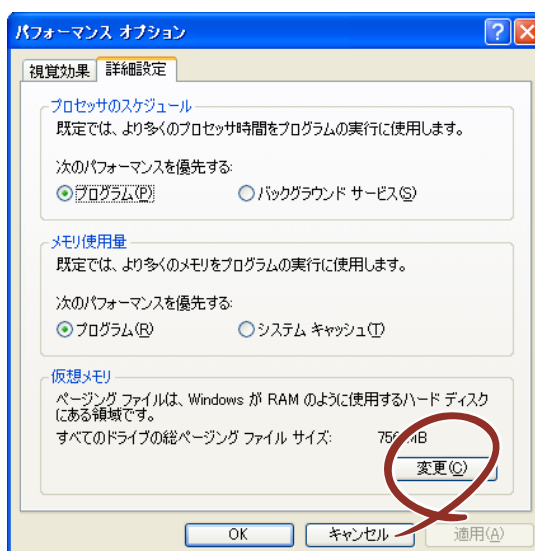
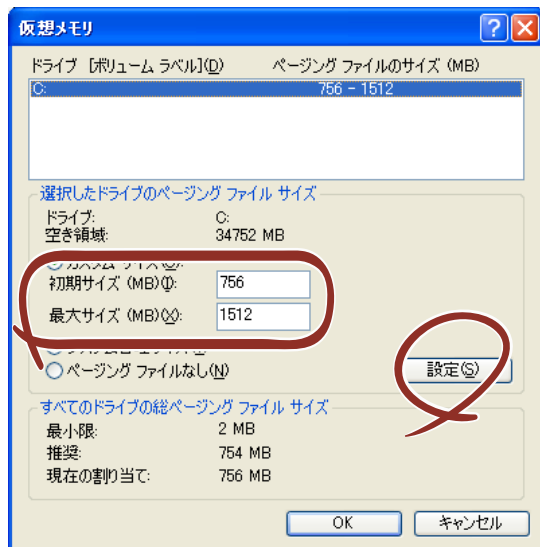
D:¥MEMORY.DMP

Windows XP Professional x64 Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

Windows XP Professionalの場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

7.　［パフォーマンス］ボックスの［設定］をクリックする。

［パフォーマンスオプション］ウィンドウが表示されます。

8. ［パフォーマンスオプション］ウィンドウの［詳細設定］タブをクリックする。

9. ［仮想メモリ］ボックスの［変更］をクリックする。

10. ［選択したドライブのページングファイルサイズ］ボックスの［初期サイズ］を推奨値以上に変更し、［設定］をクリックする。

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(37ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

11. ［OK］をクリックする。

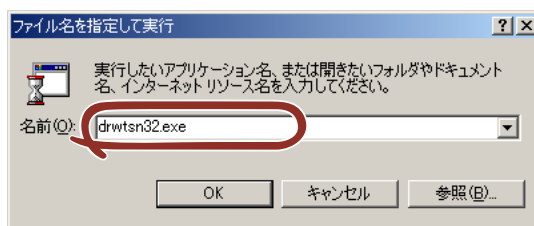
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

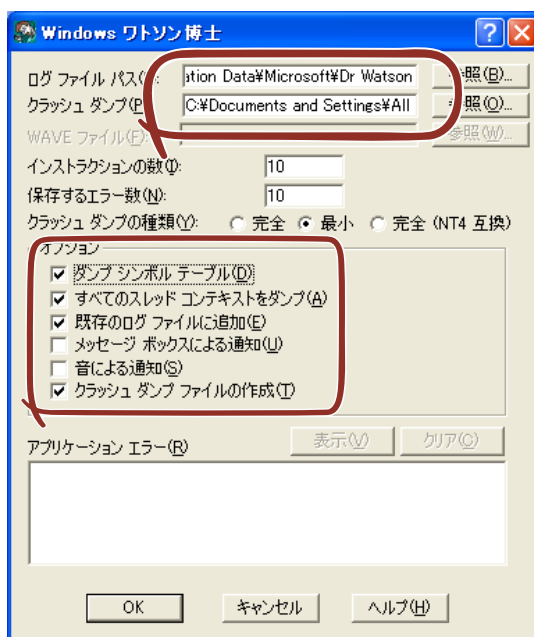
ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

ワトソン博士の設定は、購入時および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの［ファイル名を指定して実行］をクリックする。
2. ［名前］ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、［OK］をクリックする。

   ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

3. ［ログファイルパス］ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. ［クラッシュダンプ］ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. ［オプション］ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
   - ダンプシンボルテーブル
   - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   - 既存のログファイルに追加
   - クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. ［OK］をクリックする。

6　管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本体監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および本体管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。
詳細については、第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

再セットアップを行ったときは、これらのユーティリティを個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

7　システム情報のバックアップ

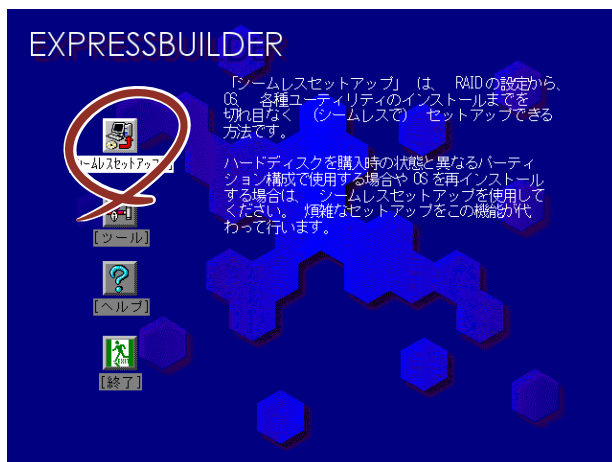
システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDERを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. ［ツール］－［システム情報の管理］を選択する。
4. ［システム情報の管理］から［退避］を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

ここでは、添付の「バックアップCD-ROM」を使用して再セットアップする方法について説明します。

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから本体装置を起動させてください。図のような画面が現れますので、「シームレスセットアップ」を選択します。

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、本編最後の「応用セットアップ」で補足しています。

- **再セットアップできるオペレーティングシステムはそれまで使用していたオペレーティングシステムです。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。**
- **Microsoft Windows XP Professional x64 Editionでは、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows XP Professional x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。**

再セットアップ　－シームレスセットアップ－

「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、オペレーティングシステム（Windows XP）、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく（シームレスで）セットアップできる方法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionでは、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows XP Professional x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

- シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、48ページの「応用セットアップ」で説明しています。
- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク（別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをご用意ください）に保存することができます。
- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、162ページを参照してください。
- シームレスセットアップでは、「保守用パーティション」と呼ばれる55MBの保守用の領域をハードディスクドライブの先頭に確保します。このパーティションを確保したくないときは、マニュアルセットアップ(49ページ参照)でインストールしてください。
- セットアップパラメータFDはお客様でご用意ください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているエディションはMicrosoft® Windows® XP Professional 日本語版（以降、「Windows XP」と呼ぶ）です。

その他のOSをインストールするときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionでは、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows XP Professional x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

BIOSの設定について

本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。
プラグアンドプレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。
Windows XPをインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能（USBインタフェースへの対応など）に関する設定項目があります。111ページを参照して設定してください。

Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

- **インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ（BIOSやオプションボードの設定）をすべて完了させてください。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に26ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**
- **シームレスセットアップでは、ステップ バイ ステップ インタラクティブは自動でインストールされません。**

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

［ディスクの管理］を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は［コンピュータの管理］内の［ディスクの管理］から行えます。

MO装置の接続について

Windows XPをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

[Windows XP Professionalの場合]

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ ＋ ダンプファイルサイズ ＋ ハイバネーション用サイズ ＋ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ ＝ 2700MB
ページングファイルサイズ（推奨）＝ 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ ＝ 搭載メモリサイズ ＋ 12MB
ハイバネーション用サイズ ＝ 搭載メモリサイズ
アプリケーションサイズ ＝ 任意

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。**
- **その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

2700MB ＋ (512MB × 1.5) ＋ 512MB ＋ 12MB ＋ 512MB ＋ アプリケーションサイズ＝ 4504MB ＋ アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. **「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。**
2. **「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。**

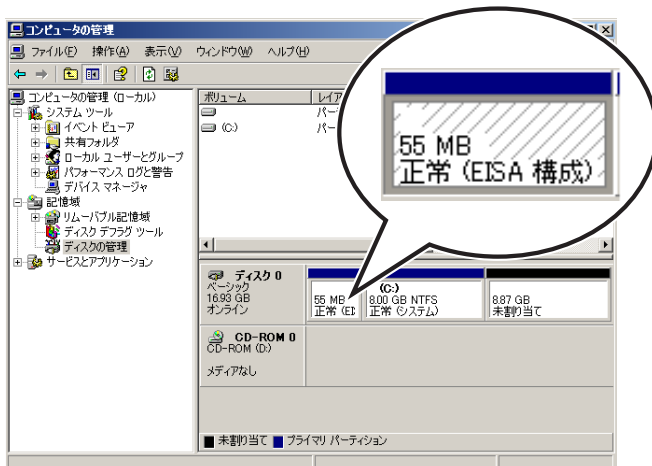
   ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

異なる種類のRAIDボードの接続について

異なる種類のRAIDボード（SW RAID含む）の共存状態でのシームレスセットアップはサポートしていません。
OSをインストールするRAIDボード以外は接続していない状態（SW RAIDの場合は無効状態）でシームレスセットアップを実行してください。

本装置ではオプションのRAIDボードはサポートしていません。

ディスク構成について（「EISA構成」と表示されている領域について）

ディスク領域に「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

サービスパックの適用について

Express5800シリーズでは、サービスパックを適用することができます。本体に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] http://nec8.com/

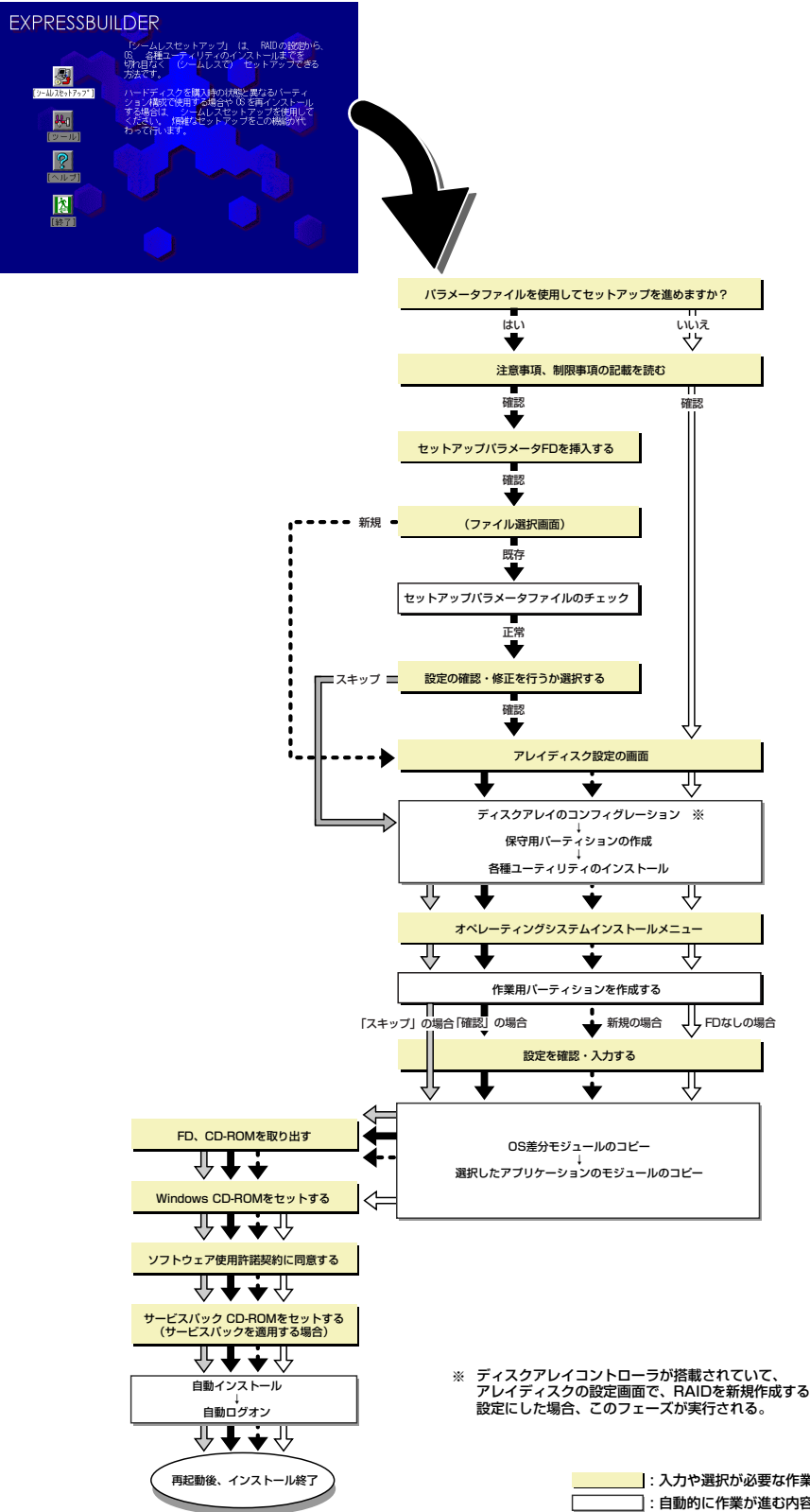
ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

セットアップの流れ

シームレスセットアップは、次のような流れで進みます。

※ ディスクアレイコントローラが搭載されていて、アレイディスクの設定画面で、RAIDを新規作成する設定にした場合、このフェーズが実行される。

：入力や選択が必要な作業
：自動的に作業が進む内容

セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル(パラメータファイル)としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。
再インストールのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。
また、シームレスセットアップの中で、ディスクアレイコントローラなどのオプションに添付されたドライバFD（「大容量記憶装置用OEM-FD」）を個別に適用する場合は、パラメータファイルの設定も必要になります。このときも空きフロッピーディスクをご用意ください。

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows XPの起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。

- OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
- OSをインストールするハードディスクドライブに論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」（49ページ）を参照してください。

2. 本装置の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. ［シームレスセットアップ］をクリックする。

5. 「パラメータファイルを使用してセットアップを進めますか？」というメッセージが表示されます。

   パラメータファイルを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」を選択してください。

6. シームレスセットアップでの注意事項が表示されます。

   表示内容をよく読んでから「確認」をクリックしてください。

ディスクになんらかのOSがインストールされている場合、インストールを続行するかを確認するメッセージが表示されます。
セットアップを続けるには「継続」を選択してください。

7. パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されます。フロッピーディスクをセットして「確認」を選択してください。

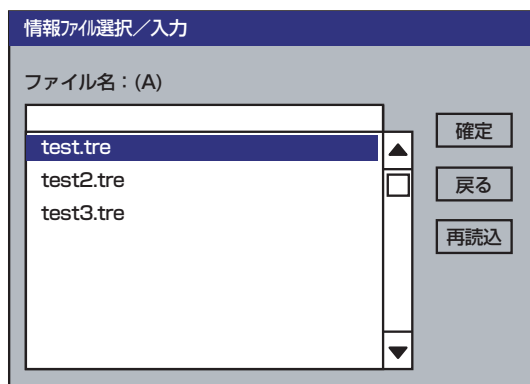
   パラメータファイルを使用しない場合は、このメッセージは表示されません。手順9.へ進んでください。

ここでセットしたフロッピーディスクは、指示があるまで取り出さないでください。

[既存のパラメータファイルを使用する場合]

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。

（1） インストールに使用するパラメータファイルを選択し、［確定］をクリックする。

確認のダイアログボックスがあらわれます。

（2） パラメータを確認する場合は[確認]を、確認せずにそのままインストールする場合は、［スキップ］をクリックする。

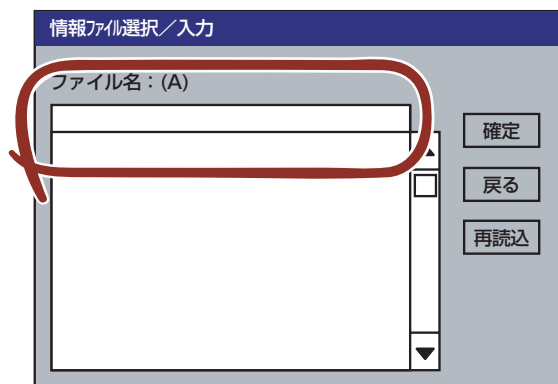
［確認］をクリック→手順8.へ進む

［スキップ］をクリック→手順9.へ進む

ディスクアレイコントローラが接続されていない場合は、手順9.へ進んでください。手順9.終了後、確認のダイアログボックスが表れます。
［確認］をクリック→ 手順10.へ進む
［スキップ］をクリック→ 手順11.へ進む

[空きフロッピーディスクをセットした場合]

（1） ［ファイル名：(A)］の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

（2） ファイル名を入力し、［確定］をクリックする。

8. ディスクアレイコントローラのパラメータを設定する。

本装置のオンボードRAID機能、またはオプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、［アレイディスクの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［終了］をクリックしてください。

設定が終了すると、自動的にRAIDの構築、保守用のパーティションの作成、および各種ユーティリティのインストールが実行されます。

本装置ではオプションのRAIDボードはサポートしていません。

[アレイディスクの設定]ディスクアレイコントローラ

項目	設定
アレイディスクの設定	する
RAIDの作成	既存RAIDを使用する
接続ディスクのトータル数	...
パックを構成するディスク数	...
パックを構成するRAID	...
ライトモードの設定	...
ライトモードの種類	...

再読込　終了　ヘルプ

9. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから[Windows]を選択します。

オペレーティングシステムインストールメニュー

Windows
その他
終了

10. 次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください（37ページ参照）。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション（保守用パーティションを除く）の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

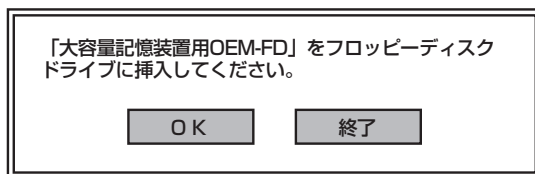
第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません（38ページ参照）。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上または120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外（保守領域を除く）にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows XPをインストールします。また、流用するパーティション（OSシステムパーディション以外）にアクティブなパーティションが存在してはなりません。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- セットアップパラメータを入力する場合、次の文字数以下で入力してください（2バイト文字は2文字で換算します）。

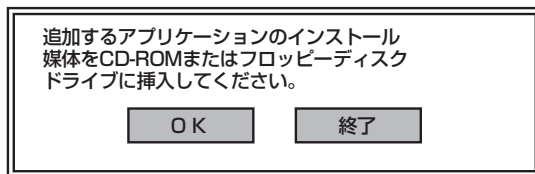
項　目	設定値	文字数
新規ユーザの作成	ユーザ名	19
	グループ名	20
	フルネーム	63
	説明	47
新規グループの作成	グループ名	20
	説明（グループ名）	47

［コンピュータの役割］画面にある［終了］をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

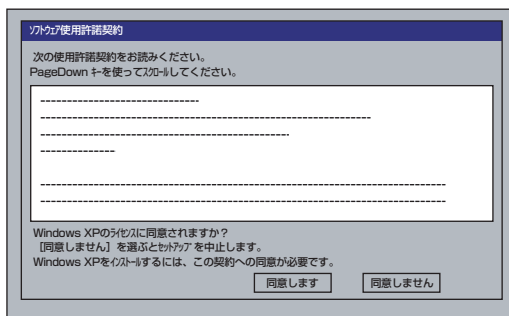
11. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

本機能を使用する場合は、フロッピーディスクドライブが接続されている装置のみ使用できます。

12. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

13. メッセージに従って「EXPRESSBUILDR」CD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出す。
Windows XP CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

［ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

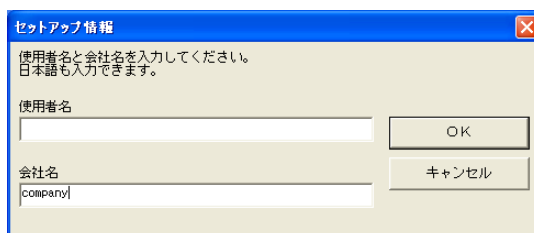
14. よく読んでから、同意する場合は、［同意します］をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、［同意しません］をクリックするか、<F3>キーを押す。

同意しないと、セットアップは終了し、Windows XPはインストールされません。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

15. 基本情報で「サービスパックの適用」を「する」にした場合は、次の操作をする。

(1) メッセージに従ってバックアップCD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。

(2) メッセージに従ってWindows XP Service Pack 2 以降のCD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報] ウィンドウが表示されます。必要に応じて、使用者名と会社名を再入力してください。

16. 20ページを参照し、デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップを行う。

17. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

18. 26ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。

19. 必要に応じて、「ステップ バイ ステップ インタラクティブ（SBSI）」をインストールする。

SBSIはWinodws XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単で使いやすい学習環境が用意されています。

SBSIは、以下の方法でインストールできます。

(1) SBSI CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

(2) 「<CD-ROMのドライブレター >:¥setup.exe」を実行する。

メッセージに従ってインストールを行ってください。

(3) 24ページを参照し、システムのアップデートを行う。

20. 33ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどを行う場合は、次の手順でセットアップしてください。

- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているオプションボードについては「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」(12ページ)を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3.へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。
4. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。
   - 「パラメータファイルを使用する」に設定する
   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

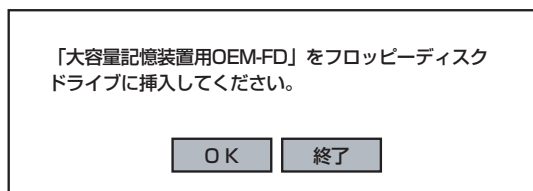
   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

   「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

   OK　終了

マニュアルセットアップ

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、保守用パーティションを確保しないでオペレーティングシステムをインストールするなど、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows　をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」または、「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」を 参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、各OS用の「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

   次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

   上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

   以上で完了です。

セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. [スタートメニュー]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

   ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか?

8. [コンピュータの管理]を終了する。

   以上で完了です。